

カニジル

カニジル特選

ゆる★トレ

FREE

2022.9

最新
「カテーテル治療」を知る

フォトルポルタージュ

NICUの優しい眼差し

周藤 美沙子

鳥取大学医学部附属病院
手術部 看護師

鳥大の人々

◎病院長対談

「たすくのタスク」永井伸和 (認定NPO法人 本の学校顧問)

新連載

鳥取大学医学科生〆とりたまゝに訊け！

「その他大勢」が多分好きじゃないから進んだ

周麻酔期看護師の道

周藤 美沙子

鳥取大学医学部附属病院

手術部

看護師

「周麻酔期看護師」—日本においてはまだ認知度も低く、全国的にも人数の少ない職種である。麻酔に関する高度な知識と技術を持ち、麻酔管理を安全に実践するスペシャリストだ。

手術件数の増加に加えて、緩和ケアの普及などにより麻酔科医不足は深刻化している。そのため、麻酔科医と協働する周麻酔期看護師の必要性は高まっている。

2010年に聖路加国際大学大学院修士課程で周麻酔期看護師の養成が始まっていた。しかし、医師の領域を侵すと捉えられていたこともあったろう、麻酔科医たちからの反発があった。「麻酔は何もなければ、安定した医療。しかし、ちょっとしたことで患者さんが脳障害を起こしたりする可能性もある。トラブルが起こったときは大変なんです。そこで看護師が責任をとる覚悟があるのかということなのでしょう。ただ、現場で苦しんでいる患者さんを目の当たり



写真・中村 治

2015年2月、横浜市立大学医学部麻酔科教授の後藤隆久は、横須賀米海軍病院を訪れていた。横浜市立大学附属病院と横須賀米海軍病院は目と鼻の先である。しかし、日本の中の「アメリカ」であるこの病院に入るには、パスポートの提示が必要であった。休憩時間、研修グループの中にいた若い女性が近寄ってきた。女性は鳥取大学医学部附属病院から来たと自己紹介した。彼女——周藤美沙子はまっすぐな目でこう続けた。

「鳥取で周麻酔期看護師は無理ですかね」

後に横浜市立大学附属病院の病院長となる後藤にとって、麻酔科医不足は喫緊の課題だった。アメリカでは麻酔技術を習得した麻酔看護師は病院で欠かせない専門職の一つである。特に若く健康な人間の多い、日本に駐留する海軍では、麻酔は麻酔科医ではなく看護師に任されていた。その現場視察が目的だった。

病気にかからない、あるいは怪我をしないという人はいません。どんな人にとって医療は生活に切り離せない。しかし、敬遠したり、垣根が高いと感じる人も少なくありません。そこで、医療の世界を「いかに知ってもらうか」↓「いかに知る」↓「カニジル」となりました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の名産品、**蟹のだし（味噌）汁**にも掛けています。蟹汁のように、皆さまに愛される存在でありたいという思いを込めました。

「カニジル」が第一にこだわるのは「ファクト」です。

医療に関して、不正確な情報が世の中にはあふれています。短く、分かりやすい言葉は人々の心に突き刺さりやすい。しかし、現実はその簡単ではありません。分かりやすくするため、大切なものを多くそぎ落としています。

医療は、科学的に証明されていることとそうでないことを完全に二分できない世界です。その時点でのファクト＝エビデンスを重んじていても、そのファクト自体がひっくり返ることもあり得る。大切なのは、愚直に取材し、確かな文獻に当たり、真摯に考える——それが我々の姿勢です。

昨今の新型コロナウイルスに関する報道で「インフォデミック」という言葉を耳にした方も多いでしょう。これは情報が感染症のように拡散し現実社会に影響を及ぼす現象を指します。SNSなどの発達により、我々が手にする情報は爆発的に増えました。その中から、いかに正確な情報を選び取ることができるか。生命の危機にも直結する

カニジル宣言

医学では、その力が特に必要になってきます。

米子市出身の経済学者、宇沢弘文は著書の中で「社会的共通資本」を「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置」と定義しました。また「一人ひとりの人間的尊厳を守り、魂の自立を支え、市民の基本的権利を最大限に維持するため不可欠な役割を果たすもの」とも書いています。

とりだい病院は、医療機関であると同時に、この地域でもっとも人が集まる場所です。「すぐれた文化を展開」し、「人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持」する可能性を秘めているという意味で、まぎれもない「社会的共通資本」であると我々は考えます。

とりだい病院のある米子市を含めた山陰地方は、「過疎」「超高齢化社会」という日本が抱える問題が凝縮されています。一方、人との温かいつながり、自然など、都会にはない豊かさがある。問題を解決しつつ、豊かさをどう維持していくか——。先んじて未来の問題を解決できる場所なのです。

新型コロナウイルスは日本社会の変化を促すことになりました。リモートワークが進めば、住む場所を選びません。都市と別の視線を持つことが、ウイズ・コロナ、アフター・コロナ時代のニューノーマルとなるかもしれません。

カニジルは、ファクト重視、地方からの文化発信にこだわっていきます。

CONTENTS

03	鳥大の人々 ——鳥取大学医学部附属病院 手術部 看護師 周藤 美沙子
06	「経皮的冠動脈形成術」「経カテーテル的大動脈弁置換術」「脳血管内治療」 最新「カテーテル治療」を知る
10	フォトルボルトージュ カニジル特選ゆる☆トレ
13	フレイル対策に1日10分 カニジル特選ゆる☆トレ
16	病院長が時代のキーパーソンに突撃！ たすくのタスク—— 認定NPO法人本の学校顧問 永井伸和
20	境港在住、駆けだし小説家の独り言 「ふみ日記」第三回 魔法は使えない
21	とりだい「人生を変えた一冊」 腎臓内科 講師 高田知朗
22	カニ箱——カニジルご意見箱 Totori Breath 海と花火の見える病院
23	新連載！鳥取大学医学科生Ⅱ医師のたまご 略して「とりたま」に訊け！ 飛鳥の森——編集後記
24	トリビート フォトグラフィアー 中村 治が切り取る、 とりだい病院の日常

Kanijiru vol.11 Staff

スーパーバイザー
結城豊弘

編集長
田崎健太

編集
中原 由依子
大川 真紀
西海 美香
柳 佳恵
沢津 橋真利佳
井野 琴音

写真
中村 治

デザイン
三村 漢 茜
大貫

にして、自分で鎮痛ができればいいのにつて思っている看護師も少なくない。医学とはサイエンス、看護は患者側に寄り添ったケアという面もある。それぞれの立場でやれることがあるはずなんです」わざわざ研修のため米子から出てきたという、周藤の思いを後藤はひしひしと感じた。

周藤は1987年に島根県出雲市で生まれた。警察官だった父親の仕事の関係で、広島市、松江市、津和野町などを転々とした。看護師を目指したのは松江東高校時代のことだった。

「母親は凄いい倍率を勝ち抜いて就職したのに、結婚して仕事をやめました。（育児が一段落して）再び、働くとなるとバートしかなかった。資格があれば仕事に戻れたという考えがあったのか、手に職（をつけなさい）って言われ続けていたんです」

幼なじみの母親が保健師をやっていたこともあり、医療の道に進むことにした。鳥取大学医学部保健学科看護学卒業後の2011年4月、とりだい病院に入職、手術部に配属された。

「手術部で3年目になって、だいぶ色んなことができるようになってきた。誰でもそうだと思うんですけど、どうしてもここに必要だと言われる人になりたかった。オンリーワンとまではいかなかったも……」

少し考えた後、「私、〃その他大勢〃が

と伝えると渋い顔になった。

「普通（の看護師）でいいじゃんって言われて。普通の看護師で普通に結婚して何が不満なのって。でも私は、普通なんて面白くないって思っていたんです」

そして後藤から送られてきたメールを見せた。

「200人ぐらい麻酔科医がいる大病院の先生が、田舎の一看護師にメールをしてくれてるんだよ。なるんだったら、今なんだって説得したんです」

心強かったのは、後に看護部長となる師長の森田が背中を押してくれたことだった。森田の同級生が聖路加国際大学のコースを修了、周麻酔期看護師となっていた。その将来性を感じていたのだ。

6月、後藤と会ったとりだいの麻酔科教授が大学院修了後の受け入れを快諾。当時の看護部長、中村真由美にも受験の許可をとった。大学院入試は8月25日、時間はなかった。難関は英語の試験だった。

「朝5時からオンラインの英語レッスンを毎日予約しました。10分前とかに起きてパソコンの電源立ち上げて、30分のレッスン。その後、一人で英語の勉強。8時ぎりぎりになって家を出て病院に行きました。仕事が終わったらまた勉強です。仕事との両立で大変だった？ いや、行きたい気持ちが強かったので大変じゃなかったです」

後藤は周藤をこう評する。

多分好きじゃないんです」と言った。

「当時は、やる気が空回りしていたというか、後輩などに厳しい言葉を結構言っていたような気がします」

そんなとき見つけたのが、周麻酔期看護師だった。調べてみると、日本周麻酔期管理研究会（JSPAC）が台湾の台北荣民総医院への視察旅行を企画していた。内容を読むとJSPAC関係者向けのようではあったが、外部からの参加も不可ではないようだった。思いきって、周藤は参加したいですとメールを送ることにした。

「卒業旅行でヨーロッパには行ったこともありましたが。でも一人の海外旅行は初めて。現地のホテルで集合、みなさんとは初対面。オレンジ色のカバン持っているから見つけてください、みたいな感じでした」

2014年8月のことだった。

台北荣民総医院は台湾の基幹病院の一つだった。台湾は周麻酔期看護師の数が世界で一番多いこと、看護師が麻酔を担当、医師が管理していると教えられた。この時点で、周藤は麻酔に関する知識をほとんど持っていなかった。ただ、看護師が麻酔に携わっているのかというぼんやりとした問いへの答えが欲しかった。同行したJSPACの日本人関係者に恐る恐る聞いてみると、素っ気ない返事が戻ってきた。

「看護師にできるんだから、やればいい

「すごい勉強したと思います。彼女は優秀、頑張り屋ですよ。そして狭き門を勝ち抜いた」

シー・イズ・グレートと英語で大きな声で言った。

横浜市立大学のある神奈川県、金沢八景での大学院生活は多忙だった。周藤は論文を書いた経験もない。そもそも論文の読み方も分からなかった。まずは図書館に行き、関係のありそうな文献を片っ端から読み漁ることから始めた。食事はほぼすべてコンビニエンスストアで済ませた。料理をしている時間がもったいなかったのだ。

「医学科の学部生の授業にも参加していました。事前に麻酔科の先生から取るべき授業をピックアップしてもらっていたんですが、あれも受けない、これも受けないって思うと増えてしまってますよね。夕方からは看護の授業。朝8時半から夜9時ぐらいまですつと授業。空いた時間に研究をしていました。一期生として頑張らないといけないという思いがあって、36時間寝ずに勉強、研究していたこともあります」

追い込まれたら、人ってこんなに起きてられるんだって思いましたと他人事のように笑った。

2018年3月、周藤は大学院の前期修士課程を修了し、とりだい病院に戻った。最初はどこまでやれるのかという周囲の視線を感じたという。まずはちょっと



んですよ」

目の前の扉がさつと開いたような感覚だった。

周麻酔期看護師への理解はほとんどない状態だった

この時点で周麻酔期看護師となるには、前出の聖路加国際大学の大学院に進学するしかない。とりだい病院を辞めて進学するのか、あるいは許可をとり籍をおいたまま進学するか。どちらにせよ、私立大学の学費、東京での生活費を考えれば現実味はなかった。

それでも台湾研修旅行は周藤の目の前に降りてきた細い糸のようなものだった。この糸を辿り、翌年には横浜米海軍病院の研修に参加、後藤と知り合った。後藤からは聖路加国際大学以外でもいい、どこか大学院に進学して麻酔の勉強をした

した麻酔科医の手伝い、そして手術時の急変時の対応などを経て、自分の居場所を見つけていった。

「（手術中）すごく出血があったとき、私は麻酔科医でもなく、手術室看護師でもない。ただ、麻酔科医を理解して、助けることができる。麻酔科医の代わりに、あれが必要、これが必要という指示を出すことができる。それで少しずつ信頼してもらったような気がします」

現場での受け入れの難しさは、横浜市立大学附属病院の後藤が体験していた。「日本の麻酔科医の頭の中には、看護師が麻酔をできるというのはなかったと思います。医師だけでなく、それ以外の職種からも大丈夫かという声があがっていた」

横浜市内立大学附属病院では周麻酔期看護師を採用した初年度、周麻酔期看護師が関わるすべての麻酔に後藤が立ち会った。周麻酔期看護師の力量を自分の目で見極めるためだった。

「周麻酔期看護師はみなさんの、我々のパートナーになる人たちです。私が一年間一緒にやって肌身で分かりました。私を信用して一緒にやりましょうという説明をしました」

だからこそ、先達がいなかったとりだいの病院で周藤が苦労したのであろうことは手にとるように分かる。それを踏まえた上でこう続ける。

「とりだいの病院も同じですが、病院の職員の半分は看護師。病院の文化は看護部

方がいいという助言を受けた。

しかし、とりだい病院でも周麻酔期看護師への理解はほとんどない状態だった。手術部師長の森田理恵に付き添ってもらい、麻酔科教授に大学院進学を相談した。しかし、「うちでは（周麻酔期看護師として使うことは）絶対にできない」という答えだった。周藤は悔しくて、看護師長室で大泣きした。それを聞いた後藤は担当教授に会って、必要性を説明すると言ってくれた。すでに横浜市立大学附属病院では、聖路加国際大学の修士課程を終えた2人の看護師が勤務していたのだ。2015年5月末、周藤が神戸で開催された日本麻酔科学会に行くと、後藤から横浜市立大学大学院で周麻酔期看護師のコースを設立すると教えられた。そして後藤は「（受験）勉強しておいてね」と冗談っぽく付け加えた。

母親に大学院進学を検討しているのだ

が左右すると私は思っているんです。向学心に溢れて、研究心があって論文を書くという看護師が増えれば、医師も尻を叩かれて、自己研鑽せざるをえない。病院全体がそういう雰囲気になれば、多職種で研究が進み、新薬や医療機器の開発にも繋がるはずなんです」

周藤は今年4月から、鳥取大学大学院医学研究科医学専攻博士課程に進んでいる。もちろん、周麻酔期看護師との勤務を続けながらである。

「現場に即した研究をして、それを論文にするとみんなが読むことができる。英語にすれば全世界の人に見てもらえる。それが患者さんへの恩返しになるんじゃないかって考えています」

「ほんとやりたいことがありすぎて、やる気を持て余しているんです」、と周藤は明るい声で笑った。

文・田崎健太

1968年3月13日京都市生まれ。ノンフィクション作家、早稲田大学法学部卒業後、小学館に入社。『週刊ポスト』編集部などを経て独立。著書に『偶然完全 勝新太郎伝』『球重伊良部秀輝伝（ミズノスポーツライター賞優秀賞）』『電通とFIFA』『真説・長州刃』『真説佐山サトル』『全書丸』『下ロコ』『スポーツアイデンティティ』『太田出版』など。小学校3年生から3年間鳥取市に在住。2019年、『カニジル』編集長に就任。

周藤美沙子（すとう みさこ）

鳥取大学医学部保健学科看護学専攻卒業、鳥取大学医学部附属病院入職、手術部配属。
2018年3月 横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士前期（修士）課程修了（周麻酔期看護学分野）。鳥取大学において特定行為研修受講（特定行為研修1区分、6区分）。
2022年4月 鳥取大学大学院医学研究科医学専攻博士課程入学。周麻酔期看護師の勤務を続けながら研究に励んでいる。



経皮的冠動脈形成術 経カテーテル的大動脈弁置換術 脳血管内治療

最新カテーテル治療を知る

近年の医療のキーワードの一つは「低侵襲」である。柔らかい細い管を体内に挿入して、治療を行う「カテーテル」はその一つとされている。ただ、カテーテルという言葉は聞いたことがあるが、実際にはどのようなことを行うのか、きちんと把握している方は多くない。患者に優しい「夢」の技術の最前線ととりだい病院の医師に聞いてみた。

取材・文 沢津橋真利佳 写真 中村 治

日本人の死亡原因の上位「虚血性心疾患」とは

「治療」は、大きく「内科」と「外科」の二つに分けられる。この二つを別つのは、メスなどを使って患部を切除するという「外科的」手術を行うかどうか、だ。その中で、カテーテルを使用した治療は両者が重なっている部分にあたる。

学部附属病院循環器内科の渡部友視助教だ。渡部が専門とする虚血性心疾患は、心筋——心臓の壁を構成する筋肉——に栄養を供給する冠動脈が狭くなったり詰まったりすることで血流が途絶えてしまう病気だ。心筋が壊死すると、胸の痛みや重苦しさ・冷や汗・吐気・胃の痛み・肩の痛みやこり・歯の痛みなどの症状が現れる。現在、虚血性心疾患は日本人の死亡原因の上位に入っている。

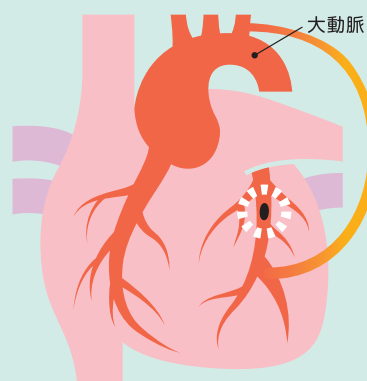
医療現場では、直径数ミリの細さの柔らかい管のことをまとめてカテーテルと称している。この「長いストローのような機器」で、心臓や脳などの疾患に対応するのが「カテーテル治療」である。

カテーテル治療で発達している分野の一つが、心臓に関する疾患である。「その中でも治療が確立されているのは経皮的冠動脈形成術（PCI）」というカテーテル治療です」と話すのは、鳥取大学医

はない。次が、冠動脈バイパス手術という外科的治療だ。

冠動脈バイパス手術は、交通渋滞・通行止めとなつていて詰まっている箇所、迂回路を作る手術である。狭くなったり詰まったりした血管の代わりに、体内にあるほかの血管を冠動脈に繋いで血液の新しい通り道を作る。患者さんには全身麻酔を行い、

冠動脈バイパス手術



バイパス

「地」に「き」網「の」ように「血」栓を「絡」み「と」る

胸の真ん中を大きく切り開き治療を行う。外科手術を行う場合、メリットとデメリットを慎重に斟酌しなければならぬ。そして三つ目の選択肢が、「低侵襲」なカテーテル治療である。

侵襲とは、生体内の恒常性を乱す可能性のある外部からの刺激の意だ。患者さんの身体に傷を付けるメスなどの切開を減らすことが低侵襲になる。身体に小さな穴を空けて手術を行うロボット支援手術、そして、カテーテル治療が含まれる。虚血性心疾患では検査からカテーテルを使用する。

まずは手首に局部麻酔を行い、専用針で血管に穴を開ける。この血管内に「挿入シース」という「管」を使って穴を広げるのだ。そしてこのシースから直径約

2mm、長さ130cm前後のカテーテルとガイドワイヤーを血管の中に通していく。「心臓の血管までカテーテルを使って、造影剤というレントゲンに映る薬剤を流しながらレントゲン撮影を行います。すると、正常な血管は太く、狭い血管は狭く、詰まっている血管は詰まって映しだされます」

そして、交通渋滞・通行止め〴〵となっている血管に、カテーテルが血管というトンネルを伝って「ステント」という筒状の金属を送り込む。このステントが血管を拡張し、血流を改善させるのだ。これを、経皮的冠動脈形成術（PCI）という。

患者さんは局所麻酔にもかかわらずほとんど痛みを感じない。また、カテーテルを挿入した傷口は一週間程度でほとんど傷跡も残らなくなるといふ。

カテーテル治療は「脳」の分野、脳神経外科でも多用されている。

「我々の場合、ほとんどのカテーテル治療の手術対象は脳卒中」であると語るのは、鳥取大学医学部附属病院脳神経外科の坂本誠准教授だ。脳卒中とは脳梗塞、脳出血、くも膜下出血という脳の血管が詰まったり破れたりする病気である。

脳梗塞を発症して、酸素や栄養が届かなくなると、脳内の組織が壊死する。一刻も早い治療が必要となる。

脳梗塞では、強い血栓溶解薬を1時間かけて静脈内に注射し、動脈内に詰まっ

ている血栓を溶かして血流を再開させる「r-tPA 血栓溶解療法」という治療法が主流だった。ただし、この治療法では、脳出血が生じて症状が悪化する危険性もあり、血流の再開通率は約3割から5割程度であるという。また、発症してから4、5時間以内に治療を開始しなければならぬなどの条件がある。

そこで、r-tPA 血栓溶解療法によって症状の改善が認められない場合など、カテーテルを用いた「血栓回収療法」という治療が行われる。

この治療でも「ステント」が使用される。この場合のステントは、網のような機器だ。詰まった血栓を「地引き網」のようにからめ取るのだ。

この血栓回収療法の血流の再開通率は約9割。近年の国際的な研究により従来の血栓溶解療法よりも、カテーテル治療を行なった場合のほうが、良好な治療結果が得られることも明らかとなった。

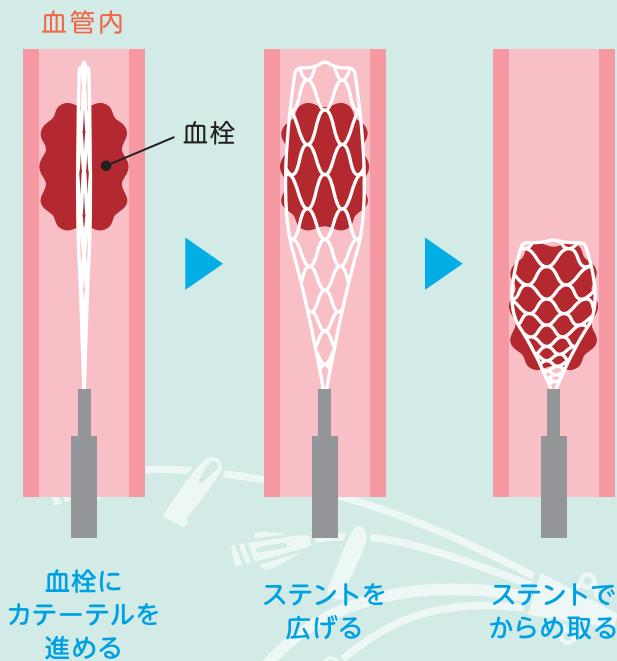
ただし、である――。

「脳梗塞の場合は早期の治療が重要。該当する患者さんすべてに対応するためには、病院としてのマンパワーが必要になる」（坂本）

現在、鳥取大学医学部附属病院の脳神経外科には、血管内治療の専門医が坂本を含め3名在籍、24時間365日対応している。

脳の血管は数が多く、細い。少しでも血管を詰まらせてしまえば、手足が動か

血栓回収治療



なくなることもある。手技で血管を詰ま

らせることは絶対に許されない。頭の中の血管は、脳の隙間を通っており、容易に傷つけてしまう恐れがある。そのため、カテーテル治療には、経験と繊細な技術と知識が必要なのだ。

「カテーテル治療は成功すれば、低侵襲で良い治療結果を残すことができるが、成功させるためには技術が必要。トレーニングが必須になってくる」

脳神経外科では、くも膜下出血の原因でもある脳動脈瘤の治療でもカテーテルが使用されている。

とはいえ、まだ技術的な面から脳神経外科分野でカテーテル治療は発展途上で

入する。それぞれの患者さんの状態に適した治療を選択すべきであると、心臓血管外科の大野原岳史助教は釘を刺す。

「TAVIは2013年に保険適用された比較的新しい治療法。条件を満たした施設のみ実施が許可されています。まだ長期的な治療成績が明らかになっていないです」

必要なのは 賢い患者になること

心臓・脳以外の分野では、胸、腹、骨盤、手足、骨などでは、放射線科でカテーテル治療が行われている。

「治療と云えば、薬で治療する、あるいは外科的手術で治療するということを思い浮かべますが、カテーテル治療は小手術に該当するもう一つの選択肢だと言えます」と言うのは、鳥取大学医学部附属病院放射線科、矢田晋作講師だ。

矢田はIVR（Interventional Radiology）を専門とする。

IVRとは、レントゲンやCT、超音波などの医療用画像を見ながら、針やカテーテルを使って行う検査や治療を指す。

「これまで保険が適応されていなかったカテーテル治療が、最近になり次々に保険内で治療ができるようになり、多くの施設で施行可能になっています」

その一つが、子宮筋腫に行われる子宮

ステントで
からめ取る

ステントを
広げる

血栓に
カテーテルを
進める

あると坂本は考えている。

「今まで治療できなかった患者さんに、治療できる選択肢が増えていく。現在進行形で改良改善が行われている領域だと思います」

現在進行形というのは、前出の心臓分野でも同様である。

経皮的冠動脈形成術以外でも、前号、カニジル10号の「鳥大の人々」で取り上げたように「経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）」でカテーテルが使用される。

TAVIでは、太ももの付け根を小さく切開し血管にカテーテルを通し、小さく折りたたんだ人工弁（生体弁）を挿

動脈塞栓術である。

30代から40代の人に多く、40代では3、4人に1人が子宮に筋腫があると言われる。

子宮筋腫は手術して切除することが最善とは限らない。子宮動脈塞栓術はカテーテルを足の付け根の動脈から挿入し、子宮動脈をふさいで筋腫への血流を止める治療だ。筋腫への栄養が届かなくなるため、症状の改善が期待できる。

「手術を望まない人や、持病などにより手術ができない人には子宮動脈塞栓術という選択肢が増えたことになりました。IVRは、外科手術に耐えられる体力がない方、臓器の機能が弱っている方、年齢などで外科手術を避けたいと考えられている方に適しています」

ただ、それだけではないんですと、矢田は続ける。

「外科的手術をしたくない、できない患者さんのみではなく、IVRを使った治療が第一選択肢になる疾患もあるんです」

信頼できる担当医と様々な可能性を相談すること。分らないことはきちんと聞くこと。選択肢が増えたがゆえに、患者も賢くならなくてはならないのだ。



足の付け根よりガイドワイヤーを挿入する

NICUの 優しい 眼差し

妊娠22週以後から37週未満で生まれた赤ちゃん——
早産児を受け入れるのが、NICU（新生児集中治療室）である。
NICUには他にも低出生体重児や病状が重く
治療や全身管理が必要な新生児も運ばれる。
我が子を抱きしめたいと切望する親に代わって、
NICUのスタッフが丁寧なケアをしている。
通常、見ることもできないNICUに、写真家、中村治のカメラが入った。

写真・中村治 取材・文 中原由依子

「最初の頃を思うとずいぶん大きくなりました」
と、嬉しそうに見つめるご両親。赤ちゃんは親
の声を聞くと安心するという。

フレイル対策に1日10分 カニジル特選 ゆるる★

近年、高齢者向けに「フレイル対策」という言葉をよく耳にするようになりました。「フレイル」とは「脆さ」を意味する言葉で、健康な状態と要介護状態の間にある人のことを指します。ただ、フレイルから要介護状態へは一方通行ではなく、対策をとることで改善したり、進行を遅らせたりすることができます。

そこで今回は、フレイル対策のためにカニジル推薦の気軽にゆるく取り組めるトレーニング「ゆるる☆トレ」をご紹介します！ぜひ毎日の習慣に取り入れて、フレイルを予防しましょう。また、若年層の方はご家族を誘って一緒に取り組んでみるのもオススメです。



子宮の中から外へ出る。早産児にとって、その環境変化は想像以上に厳しいものだ。胎内ではんやりと感じていた刺激が直接降りかかる。外気も光も音も衝撃も。すべてが赤ちゃんにとってはストレスになる。

「生まれてから72時間が最初の山」というのは、とくだい病院小児科助教で、NICU 病棟医長の美野陽一である。

突然の変化に赤ちゃんが順応できるかが、その後の治療を左右する。保育器は温度と湿度を調整して胎内に近い環境を作る。光や音も抑え、体への接触も最小限にとどめながら、72時間は慎重に外の環境に慣らしていく。

多くの早産児は呼吸も栄養摂取も自発的にできない。母親の臍の緒からの供給がストップするため、人工呼吸器や点滴で栄養や薬を送り込まなければならない。

しかし、肺をはじめ赤ちゃんの体はまだ未発達だ。人工呼吸器で送られる空気の圧力に肺が傷ついてしまったり、点滴を固定するテープを貼ったところから出血することもある。薬の量も、体重が少ないがために加減が非常に難しい。治療でさえも悪影響を及ぼしかねないのだ。

大人とは違い、赤ちゃんはまだ言葉が喋れない。生まれたばかりで赤ちゃん自身の情報が少ない中、治療がスタートする。だから——美野は、NICUの仕事について「想像して先回りするんです」と話す。スタッフステーションのモ

ニターには、赤ちゃんの心拍数や呼吸数、血圧、酸素の値など、それぞれのデータが映し出されている。24時間体制で医療者はその数値を観察し赤ちゃんを見守り続ける。体への負担が増えていないか、治療の障壁になりそうなきことが起きていないかを注意しているのだ。

NICUにいる赤ちゃんは、親と接触が限られる。親に代わり長く接する看護師たちは、小さくて傷つきやすい赤ちゃんを両手でそっと包み込むように触れ、ゆっくり優しく丁寧にケアを行なっている。

一つの指標がある。日本の新生児死亡率は出生児1,000人あたり0.9人。他の先進国と比べても1を下回るのは日本だけだ。

「自分たちは親じゃないけれど、赤ちゃんのためにできることは全部やる」

医療の進歩はもちろんであるが、新生児医療に携わる医療者すべてが、この思いを根底に持ち、大切に愛情を持って最善を尽くしている。

この日、仕事を終えた両親が面会にいられた。赤ちゃんの経過を両親に伝え、と、安心した様子で、時間の許す限り赤ちゃんのそばについていた。

NICUには、親や医療者の優しい眼差しが常にあふれている、そんなところだと改めて分かった。

今回のゆる★トレを紹介していただくのは、リハビリテーション部の理学療法士・橋田勇紀さん。米子市のフレイル対策モデル事業にも取り組んでいるエキスパートです! そんな橋田さんセレクトのゆるトレ5選、ぜひチャレンジしてみてください!



理学療法士 橋田 勇紀さん

フレイル対策のためには様々な運動の組み合わせが有効です。加えて、長く続けることができる運動を選ぶことが効果を最大限にする秘訣。今回は家でも簡単にでき、歩行の際に重要な下半身の筋力を向上させる運動を選んでみました。ぜひ、気軽に取り組んでみてください!

【ポイント】

- 各ストレッチ 15 回を 1 セットとし、朝・昼・夜に 1 セットずつ取り組みましょう
- 腰や股関節、膝の問題などで通院中の方は主治医の許可を得た上で行ってください
- 疲労があるとき、痛みを感じるときは行わないようにしましょう

ゆる★トレ フロントランジトレーニング

腰に手を当て両脚で立ちます (高齢の方は転倒の危険があるので、壁やイスなどを支えにして行いましょう)。その姿勢から脚をゆっくり大きく前に踏み出し、太ももが水平になるぐらい腰を深く下ろし 3 秒静止します。身体を上げて踏み出した脚を元に戻しましょう。左右の脚で各 15 回行います。

効果

太ももの筋力強化と股関節の柔軟性改善のほか、バランス能力向上の効果がります。バランス能力を鍛えたい方にオススメ。



支えて!

POINT!!

太ももに力が入るのを意識して!

POINT!!

後ろ脚の付け根前をしっかりと伸ばして!

ゆる★トレ 脚開きトレーニング

横向きの姿勢で膝を少し曲げた姿勢をとります。その状態から上側の脚をできるだけ開いてそのまま 3 秒静止し、ゆっくり戻します。左右の脚それぞれで 15 回行ってください。

効果

股関節周囲の筋力を鍛えることができ、ヒップアップ効果も期待できます。脚の筋力全般に不安を感じる方はぜひ試して。



POINT!!

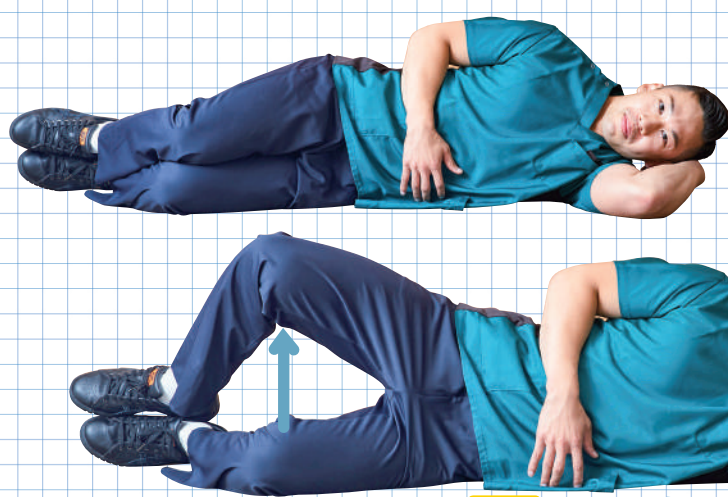
膝の前側にも力が入るのを意識して!

ゆる★トレ 膝伸ばしトレーニング

身体をまっすぐにし、太ももの裏側に心地よい伸びを感じるまで、できるだけ膝を伸ばしましょう。その状態で 3 秒静止し、ゆっくり戻します。左右の脚それぞれで 15 回行います。

効果

歩行の際に重要な太ももの前側の筋肉を鍛え、裏側の筋肉を柔らかくし膝や腰の負担を軽減する効果があります。立ち続けて運動をするのが難しい方、運動初心者の方に。



POINT!!

お尻や骨盤の横に力が入るのを意識して!

POINT!!

骨盤が動かないように注意しよう!



POINT!!

肩甲骨を背骨に寄せることを意識して!

POINT!!

腹筋に力を入れるよう意識して!

ゆる★トレ 背筋トレーニング

あごを軽く引き、視線は前を意識しながら上体を反らします。その状態で 3 秒静止し、ゆっくりと元の姿勢に戻していきます。※身体を反らして痛みが出る方は行わないようにしましょう。

効果

背筋を鍛えることができます。背骨の骨折の既往がある方、猫背を直したい方にピッタリ。

ゆる★トレ もも上げトレーニング

身体をまっすぐに保ち、できるだけ太ももを持ち上げ、その姿勢で 3 秒静止します。左右の脚で各 15 回行います。

効果

脚を持ち上げるときに働く筋肉を強化し、バランス能力向上の効果がります。歩くときにつまずきやすい方、バランス能力を鍛えたい方に。



POINT!!

身体をまっすぐ保って効果アップ!

POINT!!

床を踏みしめると両脚とも鍛えられて good!



病院長が時代のキーパーソンに突撃！

たすけのタスク

今年で創業 150 周年を迎えた「今井書店」。
米子市で産声を上げ、今や山陰地区に 18 店舗を展開しています。
今回はその今井書店グループ元役員の永井伸和さんが登場。
米子市出身の経済学者・宇沢弘文氏について学ぶ「よなご宇沢会」の設立に携わり、
直接面識もあった永井さんと、宇沢氏の理念を通じて教育や、
医療と地域の関係などを語り合いました。

認定 NPO 法人本の学校顧問
永井伸和

写真・中村 治

病院は社会的共通資本

原田 永井さんと初めてお話をさせて頂いたのは、今から 6 年前、2016 年のことでした。鳥取大学の副学長を兼務することになり、(鳥取市、湖山キャンパスの)経営協議会に出席するようになった。永井さんはこの経営協議会の委員でした。永井 会議の後、米子まで同じ電車でした。

原田 そのとき、永井さんが「いつも医学部にお世話になってます」とおっしゃったんです。永井さんが関わっておられる「よなご宇沢会」で医学部の記念講堂を使用されていたんです。恥ずかしながら、ぼくは「よなご宇沢会」を全く知らなかったんです。永井さんから、会の冠となっている宇沢(弘文)さんが米子出身で、ノーベル経済学賞に値するほどの評価を受けた経済学者であることを教えてもらいました。この若造、病院長とかいいながら、何にも知らないと思われたんじゃないですか(苦笑い)。

永井 (手を振って) いやいや、そんな風には思っていないですよ(笑い)。

原田 永井さんから宇沢先生の名前をお聞きした直後、中海テレビで『米子が生んだ心の経済学者』宇沢弘文が遺したものの(2016 年 9 月)がオンエアされました。この番組を観て、こんなに凄い人が米子にいたことを知りました。そこから宇沢先生の本を読むようになった

んです。私は病院長になった後、悶々としていたんです。とりだい病院は、経済規模で考えれば山陰で最も大きな企業の一つ。その企業が高度医療の実践をするだけでいいんだろうかと。地域につながり、一緒に発展していくべきであるとは漠然と考えていました。同時に病院がそこまで手を出してもいいのだろうか、それは医療機関の本分からはみ出すことではないだろうか。

永井 宇沢先生の言葉にヒントはありましたか？

原田 社会的共通資本という言葉ですが、永井さんには釈迦に説法ですが、宇沢先生は社会的共通資本を(ゆたかな経済生活を含み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置)と定義されています。

永井 はい。そこには「自然環境」「社会的インフラ」、教育や医療などの「制度資本」の三つのカテゴリーが含まれると。

原田 宇沢先生の娘さんである、医師の占部まりさんから(宇沢先生が)病院は社会的共通資本だって言っていましたよと教えられました。社会のためにこの病院を生かす、そのためには色んなチャレンジをしてもいいのだという裏付けをしてもらった気になりました。

永井 原田先生が宇沢先生の考えに触れた時期、2016 年から 17 年というのは、宇沢先生の功績が再評価される時期

でした。2017 年に日本医師会の横倉義武会長が世界医師会会長になっていきます。会長が宇沢先生ゆかりのシカゴ大学で講演したとき、宇沢先生の社会的共通資本に基づいて医療を再構築しなければならぬとおっしゃった。

宇沢氏との印象的な出会い

原田 宇沢先生は 2014 年に亡くなられていますが、永井さんは生前の宇沢先生とお付き合いがあったんですね。

永井 本当に偶然の出会いでしたね。ある教科書出版社の記念式典があったんです。私は鳥取県の教科書供給会社の専務をやっていた関係でその会に出席しました。会には、教科書の著者、監修者なども参加していた。私と同じテーブルに宇沢先生が座っておられたんです。

原田 そのとき、すでに宇沢先生の本は読んでおられたんですか？

永井 『自動車の社会的費用』は読んでいました。

原田 自動車は現代機械文明の輝ける象徴である、利便性は上がっている一方、公害、歩行者の事故などの問題がある。自動車の社会的費用を具体的に算出した名著ですね。

永井 この本がきっかけで、宇沢先生は社会科学の教科書の監修をしておられたんです。すごい人がいるなとは思っていたんですが、米子出身の方と認識していま

せんでした。私の胸にしていたプレートの鳥取県という文字を見つけたとたん、宇沢先生の目が変わったんです。もう、らんらんというか。ぐーっと迫ってきたんです。「鳥取県、それも米子から来たのか」っておっしゃって(笑い)。

原田 写真を見ると、宇沢先生は白く長い髭を生やしておられる。なかなか迫力ありますよね。

永井 もう他のテーブルの方は全然無視。私に色んな話をされる。テストを受けているような感じでした。

原田 永井さんがどのような人間なのかを知ろうとしたんですね。

永井 (首を横にふって) 宇沢先生は私のことを見抜くのは簡単だったでしょう。問答ですよ。プラトンなどの哲学者の問答のようなものです。

原田 その問答に永井さんはついていくことができた。

永井 いや、なんとか答えたという感じでしょうか。とにかく博識、博学な方ですから。私の親父の本棚に助けられた、というか。

原田 (首を傾げて) 本棚？

永井 私の親父は旧制高校出身で、当時の旧制高校出身の方はみんなそうだったと思うんですが、リベラルアーツ、つまり教養というものをすごく大事にしていた。本棚には(元東京大学総長、植民政策学者)矢内原忠雄さん、(東京大学経済学部教授、社会思想家)河合榮治郎さ



事を務めましたね。

永井 宇沢先生は（鳥取県の人間的、自然的、歴史的、文化的、経済的特性を考慮すると、教育と医療にかかわる社会的共通資本を中心として「公園都市」の形成をはかることが望ましい）と書いています。これはまさに今、とりだい病院が計画している新病院と重なります。

原田 教育と医療、まさに鳥取大学ととりだい病院のことです。

永井 宇沢先生は、この理念を具現化するために、中高一貫の全寮制の「農学校」、「リベラルアーツ」の大学としての「環境大学」などの事業を起こして、その実態と経験をふまえて、弾力的に未来を構築していくべきだとも書かれています。その中核事業が（長期療養、リハビリテーションの医療機関を中心とした「医療公園」）であること。

原田 ここには自然環境もあるし、温泉もある。新型コロナでストップしていますが、他の地方から患者さんに来てもらうというメデイカルツーリズムを我々も考えていました。

永井 現在進んでいる新病院についても、自然と共生した市民に愛される新しい病院となつて欲しいです。

原田 自然との共生は宇沢先生の中核思想の一つですね。新技術、文明と自然が衝突することがあります。宇沢先生は前出の『自動車の社会的費用』で自動車という文明の利器の負の部分を取りあげて

んなどの本が並んでいた。それらの本は多くの頭の隅にずっとありました。

原田 うちの父親も旧制高校出身なのでその感覚はわかります。

永井 同時に私は親父たちの世代、旧制高校出身者のエリート意識に対する反発心もありました。エリートがこの社会を支えるという使命感を持つのも大切。しかし、それ以上に、一人ひとりの人間が自分のやるべきことを考えることが大切。そういう広く深い土壌が必要ではないかと。

原田 そちらの方が成熟した社会ですよ。だからこそ、永井さんは、書店経営の他、本の流通、図書館の充実に尽力された。永井さんの生い立ちをお聞きしていいでしょうか？ 生まれは米子市ですよ。育ちは……。

永井 親父の教育方針で中学2年生から東京です。とはいえ、親父が望んだような大学、学部には進みませんでした。またま、卒業が近づいたとき、鳥取市の書店が新学期直前に傾いたんです。そこは教科書の供給のかなりの部分を担う規模の書店でした。緊急に代行しないと地元の教育に支障が出る。

原田 永井さんは東京に残って大学院に進むつもりで、家庭教師と新聞配達を掛け持ちして資金を貯めていたとか。

永井 大学3年生になってようやく学ぶことの面白さに気がついたんです。しかし、親父とお袋が上京してきて説得されました。（第二次世界大戦の）戦中戦後

永井 私事になりますが、私は要介護4の妻との老々介護の生活を送っています。

とりだい病院バンフレットの『トリシル』の中に看護師さんが原田病院長からこれから病院は積極的に街に出て行くように言われたという記事がありました。

原田 「医療福祉支援センター」の木村公恵師長の（大学病院と行政、地域の医療施設の「真の連携」を求めて）ですね。

永井 はい。とりだい病院には、高度医療はもちろんですが、地域全体を支える医療機関としての機能を期待しています。

原田 ありがとうございます。今後ともご意見を宜しく願います。

永井伸和 認定NPO法人本の学校顧問

鳥取県米子市生まれ。認定NPO法人本の学校顧問、ブックインとつとり地方出版文化功労賞実行委員会顧問、「よなこ字沢会」会員、元今井書店グループ役員（本年創業150年）。都立戸山高校卒業。早稲田大学教育学部入學・商学部1966年卒業。事業を継承し書籍小売、教科書供給、印刷出版の傍ら、児童文庫の輪を広げる「本の会」、読書推進と市町村図書館振興の活動に関わる。1991年サントリー地域文化賞。1994年日本図書館協会功労賞。1995年今井書店グループが本の学校設立。2009年、今井書店グループと本の学校が第57回菊池寛賞。2012年本の学校をNPO法人化。

原田省 鳥取大学医学部附属病院長

1958年兵庫県出身。鳥取大学医学部卒業、同学部産科婦人科学教室入局。英国リーズ大学、大阪大学医学部第三内科留學。2008年産科婦人科教授。2012年副病院長。2017年鳥取大学副学長および医学部附属病院長に就任。患者さんと共につくるトップブランド病院を目指し、未来につながる医学の発展と医療人の育成に努めながら、患者さん、職員、そして地域に愛される病院づくりに積極的に取り組んでいる。好きな言葉は「置かれた場所で咲きなさい」

と母がずいぶん苦労していたのを知っていました。母親の一滴の涙に負けました（笑い）。

原田 今から50年以上前のことですね。当時、情報の地方格差は今以上に大きかったのではないですか？

永井 地域の出版文化の構造的な問題、流通の問題。そのときの原体験が大きいですね。出版も教科書も社会的共通資本なんです。それを少しでも良くしようと、みんなで一生懸命やつてきたという感じですよ。

とりだい病院は社会的 共通資本として何ができるか



原田 現在、とりだい病院は新病院に向けて動き始めています。そこで社会的共通資本という概念は一つの鍵になると考えています。

永井 98年に発刊された宇沢先生の『日本の教育を考える』という本で最終章として（鳥取県の「公園都市構想」と一章を割いています。これは当時の西尾邑次（鳥取県）知事が提唱した公園都市構想に呼応したものです。公園とは、それまで国王や貴族が私物化、占有していた美しい庭園や文化的、学術的、芸術的施設を一般市民に開放したものが公園の始まりであると。この公園を中心に街を作っていく。

原田 西尾さんは83年から99年まで県知

宇沢弘文

経済学者。1928年、米子市法勝寺町に生まれ、家族で東京に引越す3歳までを米子で過ごす。1951年東京大学理学部数学科卒業。河上肇著『貧乏物語』に影響を受けて経済学へ転向。アメリカの経済学者ケネス・アローの招きでスタンフォード大学の研究員となった後、助教授へ就任。35歳の若さでシカゴ大学教授となる。その後、東京大学経済学部教授、同学部長、新潟大学教授、中央大学教授などを歴任。1997年、文化勲章受章、米子市「市民栄光賞」を受賞。2014年9月18日に亡くなるまで、真に豊かに生きることができた条件を、生涯をかけて具体的に探求し続けた。主な著書に『自動車の社会的費用』『成田』とは何か『地球温暖化を考える』『日本の教育を考える』『社会的共通資本』など。



『日本の教育を考える』
著者：宇沢弘文／岩波書店
（版元品切れ）



『自動車の社会的費用』
著者：宇沢弘文／岩波書店

自動車は現代機械文明の輝ける象徴である。しかし、自動車による公害の発生から、また市民の安全な歩行を守るシビル・ミニマムの立場から、その無制限な増大に対する批判が生じてきた。市民の基本的権利獲得を目指す立場から、自動車の社会的費用を具体的に算出し、その内部化の方途をさぐり、あるべき都市交通の姿を示唆する。

ふみ日記

第三回

魔法は使えない

新人賞を受賞してから、もうすぐ2年になる。その間に私が発表したのは、受賞作の単行本、エッセイ数本、新作の短編が1本。それに対し、ほぼ同時期にデビューした方はすでに数冊、単行本を上梓している。

なぜこれほど差がついているのか。その方の刊行ペースが早いのは言うまでもないが、私の筆が異常に遅いのも、大きな要因の一つだろう。ちなみにどのくらい遅いかというと、たった一行を完成させるのに、平気で数十分はかかるほどだ。まったく何も浮かばないと言うよりは、書いては消し書いては消しを、延々と繰り返している。その結果、下手したら数十分どころか、翌日に持ち越すことさえある。

受賞当時は、まさかここまで書けないなんて思っていなかった。不遜にも、面白い小説を次々生み出す自分を想像していたし、インタビューでもそのように答えていた。

それだけ大見得を切っていたから、1年目はとにかく現実打ちのめされていた。「もう新作を出せないのでは」と不安になったことは数知れない。だがある一冊の絵本が、弱気になった自分を支えてくれた。その絵本は、福音館書店刊の『まほうつ

かいのし』だ。(残念ながら現在は入手困難)

ゲーテの詩および同名の交響曲が基となっており、デイズニー映画「ファンタジア」の中の一編としても知られる。有名な話なのであらすじをご存じの方も多いと思うが、念のため紹介しておく。

ある日魔法使いの弟子は、先生から留守番と水汲みの仕事を言いつけられる。日頃から魔法を試したくてもうずうずしていた弟子は、呪文を唱え、ほうきに水汲みを代行させる。ところが弟子は、止める魔法までは知らなかった。当てずばうで呪文を唱えてみても効果はなく、たちまち屋敷は水浸しに。苦肉の策でほうきを叩き割ると、1本だったほうきが2本になり、ますます水の量が増えていく。もはや洪水のようになり、もうだめだと観念した瞬間、先生が帰宅し、魔法で水を止めてくれる。その後弟子は、先生にこっぴどく叱られるのであった。(私が読んだものは先生が魔法をかける場面が終わるが、原典では叱られるまでがセッ

トらしい) 最初にこの絵本を読んだのは、たしか5歳くらいのときだ。当時は「できもしないことをするから、痛い目に遭うのは

当然だ」とか、冷めた感想しか抱いていなかった。けれど大人になってから——特に、筆が止まって苦しんでいたときに読むと、全然違った。つい、この弟子と自分を重ね合わせてしまったのだ。

洪水で困っている弟子に、創造力が枯渇している自分を投影させるなんて、ちゃんちゃらおかしいかもしれない。だが、特別な力を手に入れたつもりになっている点は、弟子も私もよく似ている。実際は大した力などなく、うろたえる点も。先生に魔法をかけてもらった瞬間、弟子はいったい何を思ったのだろう。

改めて絵本を読み返すと、彼は、驚いたような、ほっとしたような顔をしていた。

大洪水が一瞬で止まったのだから、驚嘆するのも無理はない。不測の事態に肝を冷やしたばなしだったから、安堵するのもし当然だ。でも「ああよかった、さすがは先生だ」で終わらせてよいのだろうか。それから弟子がどうなったかは、ゲーテの詩にも絵本にも描かれていない。だが、真面目に修行に取り組みようになっていたのではないかと、私は思う。あざやかな魔法を目の当たりにし、彼は今まで以上に先生を尊敬したはずだ。先生のような立派な魔法使いになるために、その後は必死で呪文を覚えたり、きちんと言いつけを守ったりしたのである。

洪水を止めることはできないが小説家にも、魔法使いみたいな人はたくさんいる。そのような方々は、一日に何十枚も原稿を書いたり、読者の心を掴んで離さないような、すてきな物語を紡げたりするらしい。

なんとも羨ましい、夢みたいな能力だ。

だが現実には、魔法使いなど存在しない。次々と本を刊行される方、傑作を世に送り出している方々もきつと、試行錯誤を繰り返して、やっと魔法のような力を手に入れたのだろう。作中に描かれていないだけで、あの魔法使いの先生も、若い頃はたくさん失敗したかもしれない。

作家生活3年目に突入しても、私はそう簡単に変われないだろう。この原稿だって、何度も何度も立ち止まって書いている。今手をつけている短編も、いつまで経っても終わりが見えない。けれど、「自分にはできない」と悲観するのはもうやめた。「魔法」が使えないなら、使えるようになるまでひたすら、修行を積んでいけばいい。

それが1、2年なのか、あるいはもっとかかるのかはわからない。だけどいつか、みなさんに「魔法」をお見せできるその日まで、書いて書いて、書き続けたい。



鈴村 ふみ

1995年、鳥取県米子市生まれ。立命館大学文学部卒業。第33回小説すばる新人賞受賞作『糟太鼓がきこえる』(集英社)でデビュー。小説家であり、とりだい病院1階のカニジルブックストア店長。

「直島 瀬戸内アートの楽園」

著者：福武 總一郎、安藤忠雄(新潮社)



現代アートと自然と歴史の島として世界中から注目を集めている瀬戸内にある小さな島、直島。島の至る所に芸術作品や美術館が点在し、自然とアートの融合が楽しめる場所だ。シンボルとして親しまれている草間彌生のかぼちゃアートを思い浮かべる人も多いだろう。腎臓内科講師の高田知朗は、『直島 瀬戸内アートの楽園』を読み、この直島に深く興味を持つようになった。

この本と出会った高田は、直島に足を運ぶようになった。中でも特に気に入っているのは、地中美術館に飾られているクロード・モネの作品『睡蓮の池』だ。モネの絵の特徴のひとつに画面の外までどこまでも続いているような「現実の連続性」があるが、それを空間で見事に表現していることに衝撃を受けた。

「展示室はとても広い部屋で、足元には丸みを帯びた小さな大理石が敷き詰められています。その空間に1枚だけ絵が飾つてあるんです。まわりの壁面は真っ白。自然光のみによって絵が照らされているので、日によって、また時間によっても見え方が違うんです。

例えば夕方に行くとも薄暗い中にその絵がぼんやりと見える。部屋自体、空間そのものを作品として感じるのにつくりになっているんです。何度見ても飽きません」 高田はヨーロッパ留学中など、これまで美術館で数多くの絵を鑑賞してきたが、額縁に綺麗におさまった絵を見るスタイルはあまり面白さを感じなかったという。しかし直島での体験で考え方が変わった。

「ただ目で見るだけじゃない、こんな表現の仕方があるんだって

気づいたんです。空間や、光、そういうものを含めたものもアートなんだと。アートの楽しみ方に目覚めましたね」

それからは現代アートを中心に全国各地の美術館を巡るようになった。また、地中美術館を手掛けた建築家 安藤忠雄氏にも強く惹かれ、建築にも興味を持つた。彼の建築を追いかけ、北海道に行ったこともある。

一冊の本をきっかけに、アートへの扉が開き、新しい世界がひろがったのだ。

高田は腎臓が専門である。この4月にとりだい病院に設立した腎センターでも診療に携わっている。「腎臓って血液の電解質とのバランスを保つ、すごく大事な臓器なんです。計算や数学的な要素、論理立てて考える部分が多い。でも理論だけではまだまだわからない部分もある。そういったところが自分の中ではアートを理解することに通じる面白さがあると感じています」

文・大川真紀 写真・中村治

カニジルご意見箱

箱二カ



大学職員である夫が、いつも「最新号出たよ」とカニジルフানের私のために持って帰ってくれます。お医者さんや看護部長さんなどのお人柄がにじみ出るインタビュー記事をいつも興味深く拝見しています。これからも楽しみにしています！(Fさん)

ご主人、優しい！それこそご主人やFさんのお人柄が伝わってきて、心があったかくなりました。院内の職員やご家族にもカニジルフアンがいてくれて嬉しいです。ますます院内外のファンを意識して、「カニジル」を精魂込めて作っていきます！(中原)

カニジルへのご意見・ご感想を募集中！



www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/kanijiru/e/

とりだい病院ホームページからもアクセスできます。
トップ > 病院のご紹介 > 当院の広報物 > 読者アンケート回答フォーム

抽選で
カニジル
ステッカー
プレゼント！



※ステッカーの種類は選べません。

海と花火の見える病院

「海を見ていると、許してもらえそうな気がする。すべてを、許してもらえそうな気がする」
 『見えないものが教えてくれたこと』毎日新聞
 社刊）作家で脚本家、画家の大宮エリーさんは、自著の中にそう記している。

僕の出身はとりだいい病院のある米子市の隣、境港市。現在177体の妖怪ブロンズ像が並ぶ、水木しげるロードの直ぐ側で生まれ育った。

幼い頃、微睡みの時間には、漁から帰った船のエンジン音と市場の喧騒が耳に入り自然と目が覚めた。

隠岐諸島と境港をつなぐフェリーの汽笛。獲れた鮮魚を運ぶ蒸気機関車の重々しい音。積み残した魚を狙う海猫やとんびの鳴き声。港町の喧騒と波の音が僕の生活の音だった。

小学生の頃はランドセルを置くと友達らと競って、目の前の境水道に釣りに行った。境港から東京へ出て行く時には、風が横殴りの冬の日本海を眺め、自分自身の不安な気持ちとこれから立ち向かう厳しさの予感を波高に重ねたことを思い出す。

海や自然は、当時の僕にとって確実に生活の中にあり、自分を見つめる範だった。

とりだいい病院の外来玄関には、大宮エリーさんのホスピタルアートが広がる。スリランカの海をイメージしたという大きな絵は、その前に立つ人たちに様々な表情を見せる。横幅5.5メートル、縦1.8メートル。巨大な壁をキャ

ンバスにコバルトブルーの浅瀬と紺碧の海。ヤシの木や熱帯の植物、鳥も描かれる。水平線の彼方から、今まさに、真紅の太陽が顔を出そうとするその瞬間。空は、オレンジの朝焼けだ。静かな波のせせらぎと、鳥の声も聞こえてきそう。無機質で冷たい印象のある病院の空気が、この絵で変わった。

原田省病院長から「見た人が旅をしたような気分になり、痛みを忘れる絵を書いて」という依頼で、大宮さんが描いた楽園。「とりだいい病院は、一日約6千人近い人が訪れる。言わば街の顔のひとつ。そこに癒しがあったらと考えた。みんなが病院へ、訪れたくて訪れているわけではない。皆さんが日常を忘れるような豊かさを感じて欲しい」と原田病院長はアートへ想いを込める。

想いや願いといえば、7月10日の夜、とりだいい病院の上には、花火の大輪が広がった。

小児がんや難病で入院し、自由に病棟から出られない子供たちのために、クラウドファンディングで資金を集め花火を打ち上げようという計画が持ち上がった。

思いついたのは、消化器内科講師の杉原啓明医師。「院内を歩いていると点滴や検査をしている子供たちを多く見かける。去年夏、世界の風景が映し出されるモニターを小児病棟に贈った。映し出される風景で一番人気は花火。花火を見たいという子供、花火を見せたいという親



結城 豊弘

1962年鳥取県境港市生まれ。テレビプロデューサー。とりだいい病院特別顧問と本誌スーパーバイザーを務める。鳥取県アドバイザースタッフ。境港観光協会会長。

御さんも多かった。果たして本物の花火は、見せられないのか。科にとらわれず、思いついたらやりたいと思った。病院での花火は異例中の異例。でも反対より、やろうという声が大きかった」と杉原医師は説明する。

応援してくれるみんなと一緒に花火を上げたいという杉原医師の思いに支援の輪が広がった。

当初目標額の80万円は一晚で到達。最終的に募金額は、466万円に達した。

夜空には、350発の花火が打ち上がった。夜空を埋め尽くす七色の光と音。様々な思いが交錯する。涙で見つめる人。笑顔の歓声。

とりだいい病院の進化は、広がる海を見つめるようだ。止まることのない波の様に、人々の夢を今後も広げて欲しい。

Tottori Breath

新連載

鳥取大学医学科生Ⅱ医師のたまご

略して
とりたまご
に訊け！

取材・文 井野寿音
写真 中村治



医学部には、他学部を卒業してから入学してくる人、社会人として働いてから医師を志す人など、様々なバックグラウンドをもつ学生がいる。石田智子もその1人。石田にとって鳥大は2回目の在学となる。

広島県の高校を卒業後、2006年に鳥取大学医学部生命科学科に入学した。医学部内の生命科学科ではヒトの疾患の研究ができることに魅力を感じ入学を決めた。幼少期に倉吉市に住んでいたことも鳥大を選んだ理由の一つだった。



医学部医学科2年 石田智子さん

大学卒業後は大学院に進み、難病の遺伝子の研究に従事。恩師の影響で生殖補助医療に興味を持った。大学院修了後は大阪の不妊治療施設に就職し、胚培養士として働き始めた。胚培養士とは患者から預かった精子と卵子を受精、子宮に戻すまでを担う仕事だ。「6年間働いて、当時の高度生殖補助医療については全て習得した、やりきったと感じました」

そんな石田が次のステップとして選んだのは医師になることだった。

2022年、鳥取大学医学部医学科に編入。16年ぶりに鳥取大学の門をくぐったことになる。同時期、地域で高水準の医療を受けられることを目的とした医療用AIの会社を立ち上げている。

「みんなが行きたいと思う医療機関を作り、防げる病気は防ぐこと。これが私の考える地域医療なんです」

現在、彼女は神経変性疾患、特に認知症を診られる医師を目指している。神経変性疾患は生命科学科時代の研究テーマであり、亡き祖母も認知症を発症していたという。

「多くの人に、家族や大切な人と健康で長い時間を過ごして欲しい、だからこそ私は予防医療に未来を感じています」

カニジル編集後記
飛鳥の森
Hicho no mori



〈飛鳥の森とは〉

鳥取大学医学部キャンパス内にある、学生や患者さんが集う憩いの場。「飛鳥(ひちょう)」という言葉には、鳥取大学の一層の飛躍を願う気持ちが込められている。

編集 沢津橋真利佳

今年4月からとりだいい病院広報に就任しました。右も左もわからず毎日が目まぐるしく過ぎていきます。でも、普段経験のできないことが、ここではできる…。毎日「わからない」の連続ですが、それと同時にワクワクしています。「とりだいい病院」を自分の目で、耳で、感覚で捉えたものを形にして、みなさまに発信していけたらと思っています。

編集 柳 佳恵

今号より編集部員に加わりました。もともと雑誌や新聞といった紙媒体に携わっていたので、「カニジル」の制作も楽しみながら進められました。ただ今までと違い、医療用語や謎の略称が次々と出てくるので、それらを正確に理解しながら、これまで以上に“伝える”こと意識して制作しています。皆さまに届きますように。



〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地
鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略センター内「カニジル」編集部
TEL 0859-387039 / FAX 0859-386992
MAIL byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp



フォトグラファー中村 治が切り取る
とりだい病院の日常

トリセイト

中村 治

1971年広島生まれ。成蹊大学文学部を卒業後、中国・北京に2年間留学。ロイター通信社北京支局の現地通信員としてキャリアをスタート。ポートレート撮影の第一人者である坂田栄一郎氏に師事。2006年に独立、現在は雑誌広告等のポートレート撮影を中心に活動している。中国福建省の客家土楼とそこに暮らす人々を撮影した写真集『HOME』、2021年12月にはネオンサインを集めた『NEON NEON』（リトルマンブックス）を出版。2020年「さがみはら写真新人奨励賞」受賞。

check!

とりだい情報
日々発信中!



www.facebook.com/ToridaiHospital/



@ToridaiHospital

